

機関番号：15401
 研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20310148
 研究課題名(和文) アジアにおける実践を通じた「差異化」克服の理論構築：平和協力への「もう一つの道」
 研究課題名(英文) Grant-in-Aid Research Project on Differentiation and its Theories The Alternative Path to Peace and Cooperation
 研究代表者
 吉田 修 (YOSHIDA OSAMU)
 広島大学・社会科学研究科・教授
 研究者番号：60231693

研究成果の概要(和文)：本研究では、「差異化」を克服する具体的な道筋を見出す基礎とするため、アジアにおけるダイナミズムを比較と応用に用いる操作可能な概念とするための作業を行い、その結果、「グローバル化」「文明史」「伝統」などの諸概念が有効であることが明らかになった。最終年度には研究過程を通じて発見した実践的主体を招聘して国際ワークショップを開催し、『平和協力への「もう一つの道」』を明らかにする「和解、交渉、参加」を中心とした3点にわたる結論を導いた。

研究成果の概要(英文)：This research project was, as a basis for finding a concrete means to overcome the problem of ‘differentiation,’ to convert various dynamisms in Asia into the operational concepts that could be significant in comparative or applicable research, and found that those concepts like ‘globalization,’ ‘civic history’ and ‘tradition’ were meaningful. In the final year of the project, an international workshop was held by inviting those practical actors found in the process of this research project, which resulted in the conclusion that emphasized three points around ‘reconciliation, negotiation and participation’ that showed ‘the alternative path toward peace.’

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2009年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2010年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
年度			
年度			
総計	14,200,000	4,260,000	18,460,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：援助、地域協力、アジア、差異化、平和、理論、実践

1. 研究開始当初の背景

「差異化」をキーワードとして共同研究が進められた「「差異化」を超えるアジアからの試み—持続可能な国際平和協力の構築」(平成17から19年度科学研究費補助金基盤研究(B)、研究代表者：上原麻子、平成18年度より吉村慎太郎)の成果を踏まえて発展させ、「差異化」のダイナミズムを総合的に分析し、平和構築への「もうひとつの道」を理論的に探究することを目指しスタートした。

2. 研究の目的

グローバル化されるアジア社会における日常的なダイナミズムである「差異化」がもたらす人種、民族、階級などの多様な切断線は、支配の論理だけではなく、新たな社会的関係構築の可能性をも内包している。本研究は、そのような「差異化」のダイナミズムを総合的に分析し、平和構築への「もう一つの道」を理論的に探求する。すなわち、アジア諸社会の紛争や対立状況のさらなる分析とそれらの解決のための文化的及び政治学的アプローチの比較研究を行い、持続可能な平和構築を可能とする主体を、現地の社会的発

展の文脈の中で明らかにし、主体形成の理論を構築する。以上の努力を通じて、二つのアプローチの弱点を補い、学際的な共同研究によって新たなナショナリズムに世界各地が突き動かされる現代社会における平和への、実践的回答を導く基礎となる。ダイナミックな文化的アプローチを確立する。

3. 研究の方法

本研究は、大きくは各研究分担者による個別の調査活動と、調査による知見および調査を通じて発見した実践的主体についての情報の相互交換・比較を通じた理論化のための研究会活動の両者から構成される。そして第2年次中に理論化への一定のめどを立て、最終年度には各研究分担者が発見した実践的主体を招聘したワークショップを開催し、理論の有効性を検証する試みを行った。

4. 研究成果

本研究では、「ナショナリズム」、「近代国家」、「民族」、「移動」、「民主化」、「人権」、「グローバル化」、「メディア文化」、「アイデンティティ」、「差異化」などのアジア諸社会におけるダイナミズムの基礎概念を、比較と応用に用いる操作可能な概念とするための作業を行い、それによって、「差異化」を克服する具体的な道筋を見出すための基礎とすることを試みた。その結果、最終報告書に見られるように、スリランカ、ネパール、イラク、フィリピン、オセアニアの具体的な政治過程の研究を通じて、「グローバル化」という概念を通じてさまざまな地域的基礎概念が操作可能性を持つようになることが示される一方、インド、中国、台湾、フィリピンにおける「差異化」の文化的側面の研究を通じ、伝統的文明史的観点が諸概念の操作可能性を高める上で有意義であることが明らかになった。また、最終年度の3月7、8日の両日に、各研究分担者が発見した実践的主体を招聘して和平プロセスの経験を交流し、『平和協力への「もう一つの道」』を明らかにするためのワークショップを開催し、和平を実現する条件をめぐって、「和解、交渉、参加」を中心とした3点にわたる結論を導いた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 29 件)

1. Piya, L., Maharjan, K. L. and Joshi, N. P., “Livelihood Strategies of Indigenous Nationalities in Nepal: A Case of Chepangs”, *Journal of International Development and Cooperation*. Vol. 17 (2), 2011, pp. 99-113. (査読有)

2. Piya, L., Maharjan, K. L. and Joshi, N. P., “Forest and Food Security of Indigenous People: A Case of Chepangs in Nepal”, *Journal of International Development and Cooperation*. Vol. 17 (1), 2011, pp. 113-135. (査読有)

3. Joshi, N. P., Maharjan, K. L. and Piya, Luni, “Production Economics of Rice in Different Development Regions of Nepal”, *Journal of International Development and Cooperation*. Vol. 17 (1), 2011, pp. 103-112. (査読有)

4. Joshi, N. P., Maharjan, K. L., “Relationship Between Income poverty and Food Insecurity in Rural far-western mid Hills of Nepal”, *Nepalese Journal of Development and Rural Studies*, 2011, 印刷中 (査読有)

5. Maharjan, K. L. and Joshi, N. P., “Determinants of Household Food Security in Nepal: A Binary Logistic Regression Analysis”, *Journal of Mountain Studies*. Vol. 4, No. 2, 2010, pp.109-119 (査読有)

6. Joshi, N. P. and Maharjan, K. L., “Poverty and food insecurity in Nepal: A review.”, *Journal of International Development and Cooperation*, Vol.16-1, 2010, pp. 1-19. (査読有)

7. 三木直大, 阮慶岳的〈河内美麗男〉—「酷兒研究」與「族群研究」相接觸的地方, “跨國研究脈絡下的台灣文學—性別・國族與跨文化流動”, 中興大学, 2010/8, pp. 55-64 (査読無)

8. Seki Koki, “Governing through Exclusion: Un/Making of Community and Citizen in Neoliberal Urban Development in Manila, Philippines”, *Japanese Review of Cultural Anthropology*, Vol. 11, 2010, pp1-32. (査読有)

9. 外川昌彦, 「ガンディーが歩いた道—1946年のノアカリ暴動と今日の南アジア」『季刊・民族学』No. 131, 2010, pp. 40-45 (査読無)

10. 吉村慎太郎, 『6月危機とイラン革命30年』『歴史学研究』No. 864, 2010, pp. 35-42 (査読有)

11. Piya, Luni and Maharjan K. L., “Protracted People’s War in Nepal: Ana

Analysis from the Perspective of Azar's Theory of Protracted Social Conflict", Journal of International Development and Cooperation, Vol. 15, No. 1, 2009, pp. 185-203 (査読有)

12. 三木直大, 「李喬「台湾における『特殊後殖民情況』の文化現象」『植民地文化学会会報』第9号, 2009, pp. 7-8 (査読無)

13. 水羽信男, 「リベラリズムとナショナリズム」『グローバル化と中国』(『シリーズ20世紀中国史』第3巻) 東京大学出版会, 2009, pp. 103-122 (査読無)

14. 水羽信男, 「毛沢東時代のリベラリズム—「百花斉放・百家争鳴」をめぐる—」『新中国の60年—毛沢東から胡錦濤までの連続と不連続』創土社, 巻なし, 2009, pp. 83-103 (査読無)

15. 水羽信男, 「1950年代における「民族資産階級」について—中国民主建国会の反右派闘争から考える—」『東洋史研究』第67巻, 第4号, 2009, pp. 98-122 (査読有)

16. 小柏葉子, "Conflicts and Regional Peacebuilding in the Pacific Island Countries: In Search of Good Governance", Peace and Human Security (IPSHU English Research Report Series, No. 23), 2009, pp. 157-172 (査読有)

17. 小柏葉子, "The Participation of "Civil Society" in Regionalism and Peacebuilding in the Pacific Island Countries" 『松尾雅嗣教授退職記念論文集—平和学を拓く』広島大学平和科学研究センター編, No. 42, 2009, pp. 32-50 (査読無)

18. Yoko Ogashiwa, "Construccion de paz y conflictos regioales en los paises insullares del Pascifico: en busca del buen gobierno", Seguridad Humana, No3, 2009, pp. 177-193 (査読有)

19. 関恒樹, 「トランスナショナルな社会空間における差異と共同性」『文化人類学』No. 74, 2009, pp. 390-413 (査読有)

20. 関恒樹, 「グリーン・ネオリベラリズムとエイジェンシーの共同体—フィリピンの海域資源管理の事例から」『文化人類学』No. 73, 2009, pp. 477-498 (査読有)

21. Koki Seki, "Green Neoliberalism, Ecogovernmentality, and Emergent

Community", Philippine Studies, No. 57, 2009, pp. 543-578 (査読有)

22. 外川昌彦, 「マハトマ・ガンディーと藤井日達—1930年代の日印関係」『宗教研究』日本宗教学会, No. 363, 2009, pp. 395-396 (査読無)

23. 外川昌彦, 「バングラデシュに残されたガンディー・アーシュラム」『サルボダヤ』10-11月合併号, 2009, pp. 31-36 (査読無)

24. 吉村慎太郎, 「第10回大統領選挙と抗議運動」『アジア研ワールドトレンド』No. 169, 2009, pp. 10-12 (査読無)

25. 尹光鳳, 「日本のシルクロード研究の研究動向」『シルクロードの芸術』巻なし, 2008, pp. 141-155 (査読無)

26. 三木直大, 「壁を抜ける少年—台湾現代詩と記憶の現在」『現代詩手帖』, 2008/9巻, 2008, pp. 190-191 (査読無)

27. Maharjan, Pancha N. and Maharjan K. L., "Peace Negotiation in Nepal", Journal of International Development and Cooperation, Vol. 14, No. 1, 2008, pp. 67-101 (査読有)

28. 町田宗鳳, 「「環境」を哲学するとき」『哲学第59号』日本哲学会発行, 2008, pp. 9-25 (査読有)

29. 小柏葉子, 「太平洋島嶼諸国の紛争と地域協力—グッド・ガバナンス構築に向けての試み—」『広島平和科学』第30号, 30巻, 2008, pp. 49-70 (査読有)

[学会発表] (計43件)

1. 外川昌彦, 「南アジアの聖者廟から宗教的多元主義を捉えなおす」, 複合ユニット・「<宗教>から見た地域像」・個別ユニット「聖なるもののマッピング」, 京都大学地域研究統合情報センター共同研究会2011/01/29, 東京外国語大学

2. Yoshida Osamu, Majority and Minority in Politics of Regionalism in Orissa, International Symposium on Minority and Majority in South Asia, 2011/1/23, Ryukoku University, Kyoto

3. Togawa Masahiko, Hindu Muslim Relations in a Sainly Cult in Bangladesh: Religious Minority and Coexistence, 龍谷大学・国際シンポジウム, 2011/01/22, 龍谷大学

4. Yoshida Osamu, World Bank and India Consortium, Seminar on India and the Cold War: Historical and Contemporary Perspectives, 2010/12/18, Nehru Memorial Museum and Library and Jawaharlal Nehru University, New Delhi, India
5. 外川昌彦, 「聖者信仰 (スーフイズム) とイスラーム」, 日本政府・外務省招待講演, 2010/12/17, 外務省
6. Togawa Masahiko, Hindu Muslim Relations in a Sainly Cult in Bangladesh: Religious Tolerance and Co-existence, 国際学会 2010/12/12, Jadavpur University, Kolkata, India,
7. 外川昌彦, 「バングラデシュの農村電化事業から見た農村電化のニーズと課題」, 国際開発学会, 2010/12/04, 早稲田大学
8. Machida Soho, "Science and Nuclear Disarmament: Progress and Challenges", American Association for the Advancement of Science, Japan Society for the Promotion of Science, 2010/11/08, Washington D. C. USA
9. 吉田修, 開発援助の始まり: インド、コロンボ・プラン, 世界銀行, 日本国際政治学会研究大会, 2010/10/31, 札幌コンベンションセンター
10. 水羽信男, 「1950年代半ばの中国民主建国会をめぐる」, 2010年度広島史学研究大会東洋史部会, 2010/10/31, 東広島市
11. 外川昌彦, 「バングラデシュの聖者信仰と世界遺産」, 東アジア研究所の招待公演, 2010/10/27, 慶應義塾大学
12. Joshi, N. P., Maharjan, K. L., and Piya, L. "Effect of climate variables on yield of Rice in Nepal: A Time-series analysis", 『第60回地域農林経済学会京都大会』, 2010/10/23, 京都大学
13. Piya L., Maharjan K. L., and Joshi N. P., "Collection and marketing of non-timber forest products by Chepang Community in Chitwan district of Nepal", 『第60回地域農林経済学会京都大会』, 2010/10/23, 京都大学
14. 外川昌彦, 「マハトマ・ガンディーにおける宗教倫理と政治思想」, 日本宗教学会, 2010/09/05, 東洋大学
15. 外川昌彦, 「パネル・宗教とツーリズム」, 日本宗教学会, 2010/09/05, 東洋大学
16. Togawa Masahiko, Observations on Different Views on the Baul Master, Lalon Shah, in Bengal, 国際宗教学会 (IAHR), 2010/08/17, トロント大学、カナダ
17. Togawa Masahiko, Historiography of Caitanya in the Gaudiya Vaisnava Literature, 国際宗教学会 (IAHR), 2010/08/17, トロント大学、カナダ
18. 外川昌彦, 「バングラデシュの民衆文化とイスラーム—文化人類学からの視点」, 広島国際塾講演, 2010/07/07, 広島市
19. 外川昌彦, 「マハトマ・ガンディーと原子爆弾—核抑止論と非暴力運動の意味」, 長崎科研・杉原科研・合同ワークショップ、現代インド地域研究・龍谷大学拠点、京都大学拠点、及び京都大学グローバルCOE共催の報告, 2010/07/04, 京都大学東南アジア研究所
20. 関恒樹, 「排除と包摂の都市統治: フィリピンにおける都市貧困層地区の事例から」, 日本文化人類学会, 立教大学, 2010/06/13
21. 外川昌彦, 「南西アジア地域における宗教紛争と平和構築に関する比較研究について」, 広島大学・平和構築連携融合事業 (HiPeC)、及び科研・研究会・基盤 (B) 報告, 2010/05/30, 広島大学
22. 吉田修, インドの対中関係と国境問題, アジア政経学会東日本大会, 2010/05/22, 北海道大学スラブ研究センター
23. 外川昌彦, 「マハトマ・ガンディーにおける非暴力思想の形成—日露戦争とサッティヤーグラハ」, 共同研究会「平和・紛争・暴力に関する人類学的研究の可能性」, 2010/05/15, 国立民族学博物館
24. Joshi, N. P. and Maharjan, K. L., "Factors affecting poverty in rural mid-western hills of Nepal: An empirical analysis (ポスター)", The Agricultural Economics Society 84th Annual Conference, 2010/3/30 -31, エジンバラ大学、イギリス
25. Piya, Luni. and Maharjan, K. L., "Forest and food security of indigenous people: A case of Chepangs in Nepal (ポスター)", The Agricultural Economics Society 84th Annual Conference, 2010/3/30 -31, エジンバラ大学、イギリス

26. Joshi, N. P., Maharjan, K. L. and Luni Piya, “Study of Rural Poverty in Far-western Development Regions of Nepal: An inequality decomposition analysis (ポスター)”, 日本農業経済学会第84回京都大会, 2010/3/27 -29, 京都大学
27. Piya, Luni, Maharjan, K. L. and Joshi, N. P., “Livelihood strategies of Indigenous Nationalities in Nepal: A Case of Chepangs (ポスター)”, 日本農業経済学会第84回京都大会 2010/3/27 -29, 京都大学
28. Togawa Masahiko, Maoist Movement and Community Development in South Asia: Introductory Note, Seminar of CNAS & HiPeC Nepal Office, 2010/01/07, Tribhuvan University, Kathmandu, Nepal
29. 吉田修, “Eurasian Peace and Limited Roles Japan should play in it”, 2009 Peace Island Seminar between Hiroshima University and Jeju National University, 2009/10/30, Jeju National University, South Korea
30. 水羽信男, 「1930年代中国における政治変動と政治学者の自由論—王造時を素材として—」, 「中国近現代の自由主義」国際ワークショップ, 2009/10/4, 東京大学駒場キャンパス
31. Shintaro YOSHIMURA, “The Undercurrent of Iranian Nuclear Issue: With a Special Attention to the Changing Internal and External Situation (招待講演)”, Special Lecture Session of the Middle East Studies, 2009/8/26, Hankuk University of Foreign Studies (Seoul, Korea)
31. Maharjan, K. L. and Joshi, N. P. “Relationship between Income-poverty and Food Insecurity in Rural Far-western Hills of Nepal”, The 27th International Conference of Agricultural Economists, 2009/8/16 -22, 北京国際会議所, 中国
32. Maharjan, K. L., Joshi, N. P. and Piya Luni, “Sources of Climate Change, its Impact, and Mitigation Issues in Nepal”, International Conference on Climate Change, Livelihoods, and Food Security, 2009/6/9 -10, Institute of Development Studies, Jaipur, インド
33. 関恒樹, 「エコ・ガバメンタリティと共同体: ネオリベラリズム時代の資源管理に関する文化人類学的考察」, 日本文化人類学会, 2009/5/30, 大阪国際交流センター
34. Joshi, N. P. and Maharjan, K. L., “Study on production of rice in different development regions of Nepal”, The Agricultural Economics Society 83rd Annual Conference, 2009/3/31-4/1, Irish Management Institute, Dublin, Ireland
35. 吉田修, “The Beginning of Development Assistance: India, Colombo Plan and the World Bank”, The Transformation of the International Order of Asia in 1950s and 1960s, 2008/12/26, Academia Historica (台湾国史館)
36. 三木直大, 「阮慶岳という作家—インタビュー記とその周辺」東京台湾文学研究会, 2008/12/6, 東京大学文学部
37. 尹光鳳, 「日本における伝統遊びの研究視覚と課題」比較民俗学会, 2008/11/13-14, 全北大学校
38. 水羽信男, 「中国留学生と1920年代的東京—以施存統を中心」四川大学広島大学 “近代中国与日本” 学術研討会, 2008/9/28, 中国成都市・四川大学
39. 小柏 葉子, “Conflicts and Regional Peacebuilding in the Pacific Island Countries: In Search of Good Governance”, ISISA (International Small Island Studies Association) Islands of the World X, 2008/8/27, Swogwipo KAL Hotel, Seogwipo, Jeju Province, South Korea
40. 関恒樹, “Coastal Resource Management, Emergent Community, and Alternative Public Sphere: A Case of Palawan, Philippines”, 8th International Conference of Philippine Studies, 2008/7/23-25, Philippine Social Science Center, Metro Manila, Philippines
41. 関恒樹, 「トランスナショナルな社会空間における差異と共同性の生成—マニラ首都圏のOCW 互助組織の事例から—」, フィリピン研究会全国フォーラム, 2008/7/6, 同志社大学
42. 関恒樹, 「トランスナショナルな社会空間における差異と共同性の生成—フィリピン・マニラ首都圏の事例から」 日本文化人類学会, 2008/5/31, 京都大学

43. 尹光鳳, 「中世韓・中・日の雑伎演行様相」, 晋州文化研究所, 2008/5/17, 晋州博物館

〔図書〕(計 14 件)

1. 町田宗鳳, 『法然の涙』, 講談社, 2010, 397 頁
2. 町田宗鳳, 『法然・愚に還る喜び-死を超えて生きる』日本放送出版協会, 2010, 306 頁
3. 外川昌彦, 「ヒンドゥー教—植民地主義的構築説をめぐって」, 田中雅一・田辺明生編, 『南アジア社会を学ぶ人のために』, 世界思想社 2010, pp. 104-115
4. 小柏葉子, 『アジア太平洋と新しい地域主義の展開』, 千倉書房, 2010, 394 頁
5. 小柏葉子, 『オセアニア』(『朝倉世界地理講座—大地と人間の物語第 15 巻』), 朝倉書店, 2010, 513 頁
6. 小柏葉子, 『南太平洋を知るための 58 章—メラネシア、ポリネシア』, 明石書店, 2010, 336 頁
7. 吉村慎太郎, 「クルド人」後藤明・木村嘉博・安田喜憲編『朝倉世界地理講座 6—大地と人間の物語 西アジア』朝倉書店, 2010, pp. 271-275
8. 吉田修, 「行政州から自治州へ—南アジア多民族国家の連邦制」川崎信文・森邊成一編著『道州制—世界に学ぶ国のかたち』, 成文堂, 2010, pp. 119-141
9. 水羽信男, 「1920 年代初期東亜国際秩序与中国留日学生: 以施存統为中心」『“近代中国与日本” 学術研究会論文集』巴蜀出版社, 2010, 95-116 頁
10. 町田宗鳳, 『法然を語る (上)』日本放送出版協会, 2009, 190 頁
11. 町田宗鳳, 『生きてるだけでいいんだよ—『臨濟録』自由訳による—』2009, 237 頁, 創美社発行, 集英社発売
12. 三木直大(編訳), 『乱一向陽詩集』思潮社, 2009, 155 頁
13. 外川昌彦, 『宗教に抗する聖者—ヒンドゥー教とイスラームをめぐる「宗教」概念の再構築』世界思想社, 2009, 308 頁
14. 吉村慎太郎・飯塚央子編, 『核拡散問題

とアジア—「核抑止論」を超えて』, 2009, 234 頁, 国際書院

〔その他〕

学会座長: マハラジャン・ケシャブ・ラル, アジア政経学会のネパール・アフガンの吉田先生と共同でセッション企画、座長を担当
報告書: 吉村慎太郎, 「イラン核問題と NPT 体制」HIROSHIMA RESEARCH NEWS, Vol. 13, No. 1, July 2010, p. 3.

ホームページ: 「町田宗鳳 HP」

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/soho/>
「環境平和学 HP」

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/eps/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉田 修 (YOSHIDA OSAMU)

広島大学・社会科学部・教授

研究者番号: 60231693

(2) 研究分担者

町田 宗鳳 (MACHIDA SOHO)

広島大学・総合科学研究科・教授

研究者番号: 10334450

吉村 慎太郎 (YOSHIMURA SHINTARO)

広島大学・総合科学研究科・教授

研究者番号: 40220735

小柏 葉子 (OGASHIWA YOKO)

広島大学・社会科学部・教授

研究者番号: 30224091

水羽 信男 (MIZUHA NOBUO)

広島大学・総合科学研究科・教授

研究者番号: 50229712

外川 昌彦 (TOGAWA MASAHIKO)

広島大学・国際協力研究科・准教授

研究者番号: 70325207

関 恒樹 (SEKI KOKI)

広島大学・国際協力研究科・准教授

研究者番号: 30346530

マハラジャン・ケシャブ・ラル

(MAHARJAN KESHAV LALL)

広島大学・国際協力研究科・教授

研究者番号: 60229599

三木 直大 (MIKI NAOTAKE)

広島大学・総合科学研究科・教授

研究者番号: 10190612

尹 光鳳 (YOON Guanbon)

広島大学・総合科学研究科・教授

研究者番号: 00294471 (H20-H21)

(3) 連携研究者